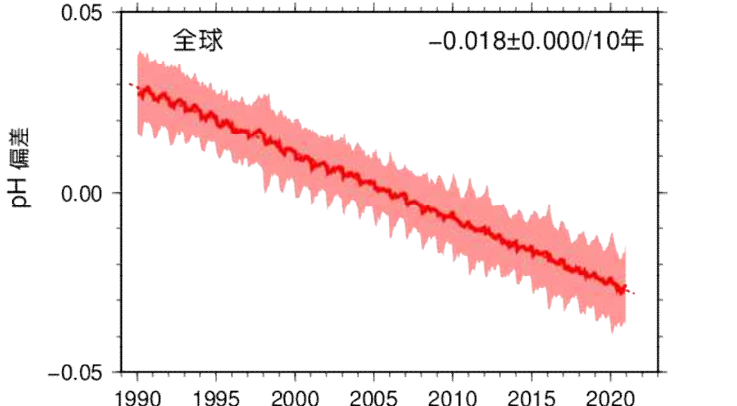
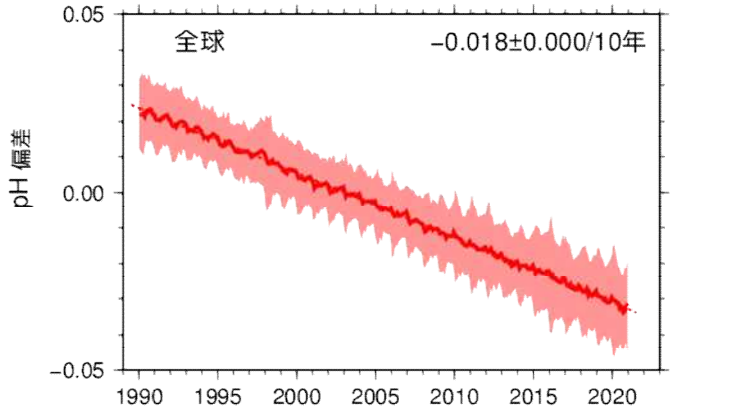


『気候変動監視レポート 2021』正誤表

修正日	対象	正	誤
2022年 4月25 日	トピックスII (p. 4)	特に、8月12日～14日は九州北部地方と <u>中国</u> 地方で線状降水帯が発生して、記録的な大雨となった。	特に、8月12日～14日は九州北部地方と <u>四国</u> 地方で線状降水帯が発生して、記録的な大雨となった。
2022年 4月25 日	第1.3.2項 (p. 31)	その後再び上昇し、202 <u>1</u> 年10月(図1.3-6)には、	その後再び上昇し、202 <u>0</u> 年10月(図1.3-6)には、
2022年 4月25 日	表2.3-3 (p. 53)	1927～2021年の観測値から算出した、大都市における変化率(10年あたり)及び都市化の影響が比較的小さいとみられる13観測地点(表2. <u>3</u> -1の15観測地点のうち観測露場の移転の影響がある飯田、宮崎を除いた13観測地点の平均)の平均変化率を示す。	1927～2021年の観測値から算出した、大都市における変化率(10年あたり)及び都市化の影響が比較的小さいとみられる13観測地点(表2. <u>1</u> -1の15観測地点のうち観測露場の移転の影響がある飯田、宮崎を除いた13観測地点の平均)の平均変化率を示す。
2022年 4月25 日	第2.6節 (p. 62)	1990年代後半から2010年代初めにかけて発生数の少ない年が多かったものの、1951～202 <u>1</u> 年の統計期間では長期変化傾向は見られない(図2.6-1)。	1990年代後半から2010年代初めにかけて発生数の少ない年が多かったものの、1951～202 <u>0</u> 年の統計期間では長期変化傾向は見られない(図2.6-1)。
2022年 4月25 日	第2.11.1項 (p. 72)	一方、南極域では2月17日に年最小値(301万km ²)となり、1979年以降 <u>18</u> 番目に小さかった。その後南半球の冬にかけて海氷は増加し、8月30日に年最大値(1934万km ²)となった。年最大値としては1979年以降で <u>22</u> 番目に小さい値であった <u>(22番目に大きかった)</u> (図2.11-1、図2.11-2、図2.11-3の各右図)。	一方、南極域では2月17日に年最小値(301万km ²)となり、1979年以降 <u>22</u> 番目に小さかった <u>(22番目に大きかった)</u> 。その後南半球の冬にかけて海氷は増加し、8月30日に年最大値(1934万km ²)となった。年最大値としては1979年以降で <u>18</u> 番目に小さい値であった(図2.11-1、図2.11-2、図2.11-3の各右図)。

2022年 4月25日	引用文献 (p. 90)	Jones, C. D. et al., 2021 : The climate response to emissions reductions due to COVID-19: Initial results from CovidMIP. Geophys. Res. Lett., 48, e2020GL091883. https://doi.org/10.1029/2020GL091883 .	(トピックス I で引用している文献の追加)
2023年 11月9日	図 2.12-9 (p. 81)		
2024年 1月23日	第 2.9 節 (p. 68)	太平洋十年規模振動 (PDO) 指数は 2000 年頃から 2010 年代前半にかけておおむね負の状態 ¹⁾ で推移し、2010 年代後半は <u>おおむね</u> 正の値が続いた。	太平洋十年規模振動 (PDO) 指数は 2000 年頃から 2010 年代前半にかけておおむね負の状態 ¹⁾ で推移し、2010 年代後半は正の値が続いた。
2024年 1月23日	第 2.9.2 項 (p. 69)	PDO 指数は 1920 年代後半から 1940 年前半にかけてと、1970 年代末から 2000 年頃にかけての期間はおおむね正の値、1940 年代後半から 1970 年代半ばにかけてと、2000 年頃から 2010 年代前半にかけての期間はおおむね負の値 ¹⁾ で推移し、2010 年代後半は <u>おおむね</u> 正の値が続いた (図 2.9-4)。	PDO 指数は 1920 年代後半から 1940 年前半にかけてと、1970 年代末から 2000 年頃にかけての期間はおおむね正の値、1940 年代後半から 1970 年代半ばにかけてと、2000 年頃から 2010 年代前半にかけての期間はおおむね負の値 ¹⁾ で推移し、2010 年代後半は正の値が続いた (図 2.9-4)。

